

平成19年8月1日 南丹市役所の組織が変わります

8月1日から、南丹市の組織・機構を再編成します。
今回の見直しは大規模なものとなるため、市民の皆さんに経過や具体的な変更点についてお知らせします。

現行組織の課題

本庁と支所で事務が重複するなど非効率なところもあり、多くの改善意見や課題が出ています。

「財政の健全化」と「効率的な組織運営」のために

限られた財源を計画的に投入していくためには、専門的な見地から事業全体を見渡して、重点を置く事業を決定する必要があります。

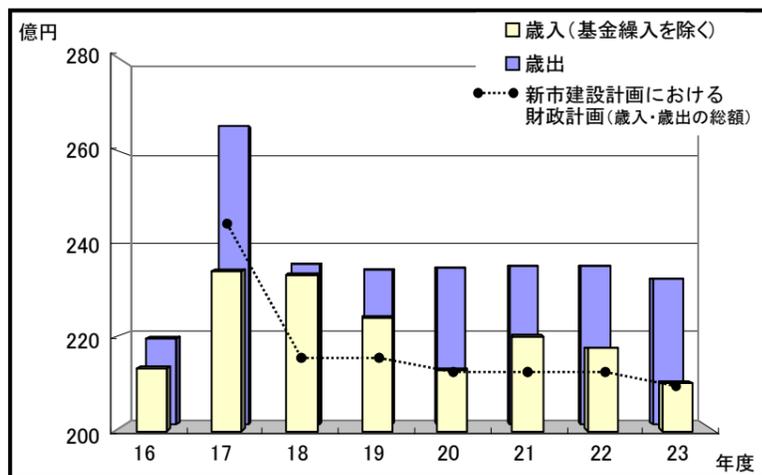
また、合併協議の想定を超える多くの課題や、新たに生じたさまざまな施策・課題に速やかに対応するためには、効率的で簡素な行政組織へ変更することが必要です。

南丹市の財政見通しは

本年6月に作成した財政見通しでは、南丹市の歳入は、合併初年度（平成17年度）をピークに年々減り続け、平成20年度には220億円を割り込むと見込まれます。

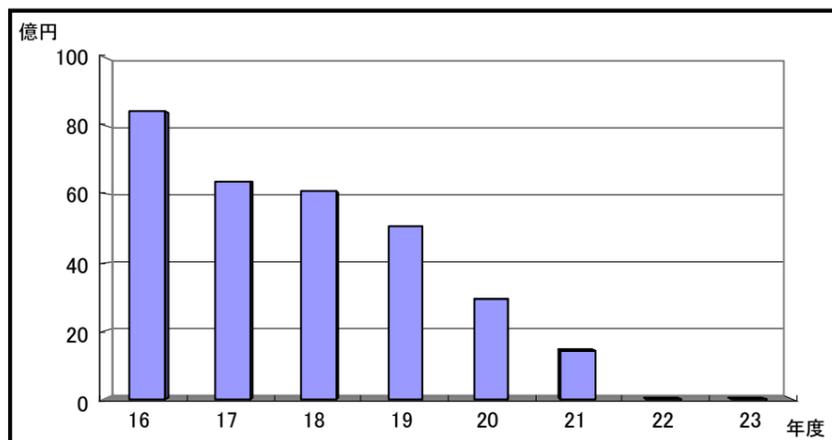
一方歳出は、平成18年度および19年度の規模で事業や制度を継続した場合235億円程度となり、基金（いわゆる市の貯金）を取り崩したり、特別の財源を手立てしないと、毎年度15億～20億円の赤字となる見込みです。

○ 歳入と歳出の見通し



しかし、不足分を基金で補い続けた場合、平成22年度には基金残高がゼロになってしまうという危機的な状態です。

○ 基金残高



これらの課題に対応するためには、合併後2年に満たない早い時期ではありますが、次年度予算の検討を始める今こそ、組織の再編強化を行う必要があります。

今回の組織再編強化では、次の3点を柱として検討を進めました。

◎ 新たなまちづくりを目指して ◎

- ① 総合支所機能を維持しながら、市民が利用しやすく、わかりやすい組織づくりを行う。
- ② 南丹市のまちづくりや各種計画の具体化、新たな行政課題への対応を図るための組織づくりを行う。
- ③ 厳しい財政状況を乗り越え財政運営の健全化を図るため、行財政改革を推進できる組織づくりを行う。

組織機構の再編・強化の概要

現体制において、十分な業務の執行が図れていない分野や、今後さらなる対応の強化が必要と思われる分野について、部や課を新設・分離します。

例えば、世界的な課題となっている地球温暖化対策や、環境汚染・廃棄物対策の充実を図るため「環境課」を新たに設置します。

また、課名は変わらなくても専門職員を集約することで、事務や事業の効率化を図りながら、これまで対応できていなかった分野に対応できるようにします。

これにより、従来、複数事務を担当するため、広く浅くしか携われなかったところが改善され、専門的・的確な業務の遂行が可能となります。

一方、関連する部署と統合することで効率化が図れるものについては、分離・集約を行い、現行3部29課を7部33課に編成し直します。

市長部局以外の行政機関でも、会計監査や出納検査を厳正に行い、行財政全般のチェック機能を充実させるため「監査委員事務局」に専任の職員を配置するなど、体制を強化します。

本庁と同じ建物に配置されている園部支所は、重複した事務が多いため本庁に統合し、廃止します。

園部支所で行っていた業務は、本庁のそれぞれの課が引き継ぎます。

八木・日吉・美山の各支所については、職員は減員となりますが、総合支所機能を引き続き維持し、サービスの低下を招かないよう地域振興や消防防災、各種証明書発行、保健医療・福祉に関する相談や対応、道路河川の維持管理など、市民と密接なつながりのある業務を中心に継続します。

※ 再編強化後の組織機構図と、各課の主な業務内容を裏面に掲載しています。